

地元著名人が登場

余塵

今週から弊社紙に以前連載していた故・岩間宏さん作のマンガを連載している。中央紙などに連載されている風刺マンガは、当時の首相や外国の大統領などが登場するが、弊社紙に掲載されていた岩間さんの作品に登場するのは、釧路、根室地方の首長はじめ身近な著名人ばかりで、それが人気を博した▼本日掲載しているマンガは釧路公立大学が紆余曲折を経て開設認可を受けた際の作品で、当時の鰐淵俊之釧路市長、大矢快治根室市長、釧路、根室管内町村長、経済界代表らが一堂に描かれている▼また、2回発行した「まんが時評」では、1988年の初刊に280人、1992年の第2巻には251人が登場している。最も多く登場しているのはやはり鰐淵釧路市長であろう▼これだけの地元の著名人が登場するマンガは他に例を見ないと言っても過言ではない。そしてこの顔もご本人の特徴をよく捉えている。またその内容に思わず吹き出す作品も多かった▼第2巻の最後に岩間さんは「地元の題材で物語を作るのに悪戦苦闘した」と振り返っているが、「面白いと評価をされるとフアイトが湧く」とも述べられている。弊社紙の歴史の中で人気を集めたコーナーだったことは間違いない。(堀口 義彦)

岩間さんをしのぶ

まんが時評



〈3〉

釧路公立大学開校 (1988年4月)

構想から3年、遂に1987年12月、文部省から釧路公立大学の開設が認可された。4年制大学では全国初の一部事務組合方式で、釧路管内1市9町村(当時)の広域的協力の成果が実を結んだ。公立大設置を実現させる会への寄付も多額に上り、まさに地域の大学として翌年4月に入学式が行われた。

「市町村、協力の成果実る」

